



07

羽太 広海
Hiromi Habuto

人口知能は宮廷画家の夢を見るか？
キャンバス印刷F30号 ジェルメディウム 910×727mm
ART SPACE BAKU MAAS展
アジアデジタルアートアワード AIアートアワード AIAA賞



概要

AIといえばSF映画やSF小説の専売特許であり、スタンリー・キューブリック監督の「2001年宇宙の旅」のHALコンピューターなど、無機質な悪魔の技術としての印象を私たちに与えました。映画「ブレード・ランナー」原作者のフィリップ・K・ディックの小説にも悪夢的な思考をもつAIが登場し、私たちの想像力を刺激してきました。

しかし、現代は技術の発展でAIが巷に出回り、既にフィリップ・K・ディックの悪夢世界を凌駕する時代になっている気がしてなりません。一家に一台AIスピーカーがあり、子供達は日常的に使いこなしています。すでに映画「ブレード・ランナー」が牧歌的に感じるほど悪夢世界が日常化しています。

画像生成AIの登場はまさに画家にとっての悪夢が現実化してしまった事態です。画家の専売特許である描画のタッチなどが、世界中からデータセットとして取り込まれモデル化され、その意味が大きく変化してしまいました。フィリップ・K・ディックの悪夢世界のような事態が、クリエイティブというものを根幹から揺るがしています。こうした技術の拡散は、顔料を砕いて自家製の絵の具を作ることができる宮廷画家の時代が終わりをつげ、チューブに詰まった絵の具が市中で売られ、主役が印象派に変わったのと同様の革命といえるかもしれません。写真が登場し絵画の意味が変わりもしました。

テキスト特徴量から指示に合わせた画像を生成するような拡散モデルベースのAIを使用し、画像を生成しています。美術を生業とする人間が、絵筆を使わず画像生成AIという道具を使って絵を生成する。悪魔に魂を売った描画自体がこの作品のテーマとなります。